

シェーナ・リーリカ《ディドーネの死》 作品解説 水谷 彰良

初出は 2015 年 ROF 予習会の配布テキスト。増補改訂版を日本ロッシーニ協会ホームページに掲載します。

(2015 年 7 月/8 月改訂)

題名 ディドーネの死 *La morte di Didone*

ジャンル カンタータ (cantata)

形式 合唱付きシェーナ・リーリカ (scena lirica con cori)

作曲 1810 年または 1811 年頃 (解説参照)

作詞 不明、イタリア語

註：メタスタジオの台本《見捨てられたディドーネ (*Didone abbandonata*)》もしくはこれを原作とするオペラの台本から不詳の人物が構成 (解説参照)。

初演 1818 年 5 月 2 日、ヴェネツィア、サン・ベネデット劇場 (Teatro San Benedetto)

編成 ソプラノ [ディドーネ *Didone*]、男声合唱 (テノール I・II、バス)、管弦楽 (2 フルート、2 オーボエ、1 コルノ・イングレーゼ、2 クラリネット、1 ファゴット、2 ホルン、2 トランペット、ティンパニ、弦楽 5 部)

初演者 エステル・モンベッリ (Ester Mombelli, 1794-1860 頃 ソプラノ)

演奏時間 約 21 分

自筆楽譜 消失 (未発見)

註：筆写譜が 5 点現存し、うち四つ——リミニのガンバルンガ図書館、ペーザロのロッシーニ音楽院、ローマのサンタ・チェチーリア音楽院、ヴェネツィアのサン・マルコ図書館の各所蔵——は完全な総譜である (その中の三つはリコルディ社の写譜者による)。校訂者パオロ・ロッシーニはリミニの写譜が最もオリジナルに近いと推測¹。

初版楽譜 1820 年代初頭にリコルディ社が次の 2 曲をピアノ伴奏譜の形で出版²。

・アリア《*Se dal Ciel pietà non trovo*》Gio. Ricordi, Milano, [n.pl.946], 1820.

・レチタティーヴォとアリア《*Per tutto l'orrore*》Gio. Ricordi, Milano, [n.pl.1115], 1821.

Casa Ricordi – BMG Ricordi SpA, Milano. (Paolo Rossini 校訂。総譜とピアノ伴奏譜。演奏用の貸譜)

現行譜 前記 Paolo Rossini 校訂版

全集版 未出版 註：ロッシーニ財団の批判校訂版第一次校訂譜はパオロ・ロッシーニの校訂で 1990 年頃に成立し、リコルディ社の貸譜とされている。

構成 次の三つの部分からなる。

註：校訂者パオロ・ロッシーニによる区分。シンフォニーは導入曲と位置づけられる。

- 1) 導入曲と合唱〈哀れなお方、不運なお方！*Misera, sventurata!*〉(合唱)
- 2) レチタティーヴォ〈すべてが恐怖、すべてが死 *Tutto è orror, tutto è morte*〉とアリア〈もしも天からの慈悲を見出せないなら *Se dal ciel pietà non trovo*〉(ディドーネ、合唱)
- 3) 合唱〈逃げて、女王さま、お逃げください！*Fuggi, Regina, fuggi!*〉、レチタティーヴォ〈ひどく不正な神々よ *Ingiustissimi dèi*〉、アリア〈あまねく恐怖が *Per tutto l'orrore*〉とフィナーレ〈もはや逃げ道はありません *Più scampo non ci resta*〉(ディドーネ、合唱)

解説

1810 年に面識を得たテノール歌手ドメニコ・モンベッリ (Domenico Mombelli, 1751-1835) の 2 人の娘のうちの一、ソプラノのエステル・モンベッリ (Ester Mombelli, 1794-1860 頃) のために作曲・献呈。ジャンルはカンタータに属するが、同時代の複数の筆写譜は劇場や演奏会などで単独に演奏するシェーナ・リーリカ (scena lirica) とする。自筆楽譜が失われて作曲年に関して確定的資料がなく、モンベッリ一家との出会いで書かれた《デメトリオとポリービオ》が当初 1806 年もしくは 1809 年とされ、現在は 1810 年夏と認定されているのでそれ以降の作となる (フィリップ・ゴセットは最初のロッシーニ作品目録で 1811 年頃と推定し、以後これが踏襲されるが、ロッシーニの父ジュゼッペは息子の作曲したカンタータの目録に 1810 年と記しており、セルジョ・ラーニはこれを作曲年とする³)。演奏記録



エステル・モンベッリ

も 1818 年 5 月 2 日にヴェネツィアのサン・ベネデット劇場におけるエステル・モンベッリ自身の慈善演奏会が唯一で、これが初演と見なされる。

テキストは、ピエートロ・メタスタージオ (Pietro Metastasio [本名アントーニオ・トラパッシ Antonio Trapassi], 1698-1782) の台本《見捨てられたディドネ (*Didone abbandonata*)》(メタスタージオ初のオリジナル台本で、ドメニコ・サッロ作曲で 1724 年ナポリ初演) もしくはこれを原作とするオペラの台本から不詳の人物が構成した⁴。原作はウェルギリウス (プブリウス・ウェルギリウス・マロ [Publius Vergilius Maro], 紀元前 70-紀元前) の叙事詩『アエネーイス (*Aeneis*)』。嵐に遭遇してカルタゴ [カルターゴ] に漂着したアイネイアース [オペラのエネーア] がカルタゴの女王ディドネ [オペラのディドネ] と恋に落ちるが、アイネイアースは神の命令で出帆し、捨てられたディドネは絶望の果てに火葬壇で自殺するという物語で、絵画や彫刻の題材とされ、多数の作曲家がカンタータやオペラに作曲している (ディドネを主人公とするオペラはカヴァッリ作曲《ディドネ》1641 年を皮切りにさまざまな作曲家が手がけ、メタスタージオ台本を用いたそれはヨンメリやサルティの歌劇が秀作として知られる)。



グエルチーノによる『ディドネの死』(1631 年)

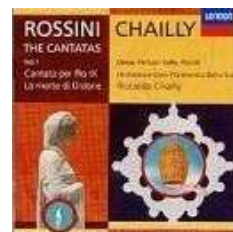
ロッシェニ《ディドネの死》は、ディドネに同情してその死を思いとどませようとするコロスに当たる合唱が関与し、エネーアに去られたディドネの絶望と怒り、死を決意してカルタゴの破滅を願う激情がドラマティックに描かれる。全体は三つの部分 (上記) からなり、調性はハ短調 (導入曲と合唱)、変ホ長調 (アリア)、ハ長調 (合唱) ～イ短調 (アリア) ～ハ長調 (フィナーレ)。導入曲をなす序曲は精妙な序奏とアレグロの主部からなる (アレグロの第一主題は 1808 年作曲のカンタータ《オルフェーオの死によせるアルモニアの涙》のシンフォニアから転用)。

ティンパニの連打が幕開けを告げて合唱〈哀れなお方、不運なお方! (*Misera, sventurata!*) となり、新たなティンパニの連打でレチタティーヴォに移行する。最初のアリア〈もしも天からの慈悲を見出せないなら (*Se dal ciel pietà non trovo*)〉はカンタービレの前半部と輝かしいパッセージを伴う後半部からなり、終曲は逃げるよう促す激しい合唱と決然としたディドネのレチタティーヴォを経て、ドラマティックに高揚するアリア〈あまねく恐怖が (*Per tutto l'orrore*)〉で閉じられる (ここでのフィナーレはアリアの終結部に相当)。

作品を献呈されたエステル・モンベッリは《デメトリオとポリーピオ》初演 (1812 年 5 月 18 日ローマ、ヴァッレ劇場) でリジガ役を創唱し、《ランスへの旅》(1825 年 6 月 19 日パリ、イタリア劇場) コルテーゼ夫人も彼女のために書かれた。《ディドネの死》はモンベッリの資質を前提に作曲され、最高音は c^{'''}となっている。演奏記録は前記 1818 年 5 月 2 日ヴェネツィアのサン・ベネデット劇場が唯一で、復活演奏は 172 年後の 1990 年 8 月 8 日、ペーザロのロッシェニ・オペラ・フェスティヴァルで行われた (オーディトリウム・ペドロッチェ。ディドネ: パトリシア・シューマン、指揮: アルベルト・ゼッダ、ボローニャ市立劇場管弦楽団)。日本でも 2010 年 3 月 11 日に東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会で演奏されている (ディドネ: イアーノ・タマー [イアノ・タマール]、指揮: アルベルト・ゼッダ)。

推薦ディスク

- ・ロッシェニ・カンタータ全集第 1 巻 ディドネ: マリエッラ・デヴィーア (ソプラノ)、リッカルド・シャイー指揮スカラ・フィルハーモニー管弦楽団 1997 年録音 Decca 458 843-2 (海外盤) POCL-1859 (国内盤。廃盤)



¹ Paolo Rossini, *Una cantata scenica: «La morte di Didone»* (in “*La morte di Didone e Arie di baule*”, Programma del ROF, 1996., pp.11-15.) 以下、基本部分は同稿に準拠。

² 誤って《見捨てられたディドネ》の楽曲として出版。

³ Sergio Ragni, *Rossini: cantata prima e cantata seconda*. “Messa di Gloria”, Programma del ROF, 2015., pp.31-34.] 父ジュゼッペの記したカンタータ目録は p.30. に写真複製。

⁴ 歌詞の一部がメタスタージオ《見捨てられたディドネ》第 3 幕、《エツィオ (*Ezio*)》第 3 幕と一致する。詳しくは前記パオロ・ロッシェニの前記論考を参照されたい。